



2023年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年8月14日

上場会社名 株式会社ビーグリー 上場取引所 東
 コード番号 3981 URL https://www.beagle.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 仁平
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部長 (氏名) 三吉 達治 (TEL) 03-6706-4000
 四半期報告書提出予定日 2023年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第2四半期の連結業績(2023年1月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第2四半期	9,427	1.3	733	△28.5	705	△26.5	340	△18.9
2022年12月期第2四半期	9,310	0.7	1,025	55.2	960	63.4	420	77.5

(注) 包括利益 2023年12月期第2四半期 340百万円(△18.9%) 2022年12月期第2四半期 420百万円(77.5%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2023年12月期第2四半期	56	79	56	45
2022年12月期第2四半期	70	49	69	81

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第2四半期	17,966		6,594		36.7	
2022年12月期	19,039		6,314		33.2	

(参考) 自己資本 2023年12月期第2四半期 6,594百万円 2022年12月期 6,314百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2022年12月期	—	0.00	—	12.00	12.00	0.00
2023年12月期	—	0.00	—	—	—	—
2023年12月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では当社の剰余金の配当は期末配当の年1回を基本方針としております。

3. 2023年12月期の連結業績予想(2023年1月1日~2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	19,622	4.9	1,822	3.8	1,766	9.8	900	35.4	150	80

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P10「(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年12月期 2Q	6,243,986株	2022年12月期	6,236,342株
2023年12月期 2Q	234,706株	2022年12月期	238,985株
2023年12月期 2Q	6,000,495株	2022年12月期 2Q	5,961,348株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、感染症の分類も5類感染症へ移行し、国内外での人流も回復するなど、感染症対策と経済活動の両立により、社会経済活動の正常化が進みつつあります。一方で、緊迫した世界情勢に加え、不安定な円相場やインフレによる経済停滞が懸念され、依然として不透明な事業環境が続いております。

当社を取り巻く事業環境は、紙の出版市場が縮小している一方で、電子出版市場は継続的に拡大しており、インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2022」によると、2023年度の成長率は9%程度になると予測されており、今後も電子書籍及び電子コミックの市場規模はゆるやかな拡大が続くことが予想されております。

このような市場環境の中で、プラットフォームセグメントにおいては、電子コミック配信サービス「まんが王国」のブランド構築に注力しつつ効率的な投資を、コンテンツセグメントにおいては継続的なデジタル成長による安定的な利益創出を実行しました。

さらに、コンテンツプロデュースカンパニーとしての機能強化や成長加速のため、2021年11月に資本業務提携契約を締結した日本テレビ放送網株式会社（以下、「日本テレビ」という。）との協業案件を継続的に推進いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は9,427,984千円（前年同期比1.3%増）、営業利益は733,230千円（前年同期比28.5%減）、経常利益は705,444千円（前年同期比26.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は340,744千円（前年同期比18.9%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(プラットフォームセグメント)

プラットフォームセグメントの主力サービスである「まんが王国」においては、ユーザーの訪問・定着・課金の流れを促し、課金者数と顧客単価を上げるべく、お得感を訴求するキャンペーンや幅広いユーザー層獲得のための販売促進活動を積極的に行いました。

さらに、原作付きのコミカライズ作品や異世界ファンタジー等の人気ジャンル作品といった“ここだから読める”作品の創出に注力いたしました。

この結果「まんが王国」は、お得感No.1（2023年4月に実施された第三者調査機関による電子コミックサービスに関する調査で最もお得に感じるサービス第1位を獲得。）のコミック配信サービスとして、2023年5月に累計ダウンロード数が20億冊を突破、2023年4月に会員登録者数が750万人を突破いたしました。

小説投稿サービス「ノベルバ」においては、投稿作品を原作としたコミカライズ・メディアミックス展開を推進するため、アプリ利用者数並びに投稿作品数の増加を目的とした施策の実施や小説コンテストを開催いたしました。

また、国内コミック配信事業で培ったノウハウを生かし、諸外国の中でも、特に拡大が予想されている北米の電子コミック市場において、2023年6月に北米向けコミック配信サービス「yomoyo（ヨモヨヨ）」の提供を開始いたしました。

日本テレビとの取り組みにおいては、「まんが王国」にて昨年末より連載を開始した漫画家発掘ドキュメントバラエティー「THE TOKIWA」発のコミカライズ作品「ようこそ！パラダイス劇場へ」の電子コミック版が完結し、2023年8月に紙書籍を販売いたしました。

これらの結果、当セグメントの売上高は6,208,308千円（前年同期比2.5%増）、営業利益は241,477千円（前年同期比39.1%減）となりました。

(コンテンツセグメント)

コンテンツセグメントにおいては、デジタルコンテンツを中心に、新たなコミック誌の発刊や、電子書店ごとの特徴やユーザー層に合わせた販売促進活動を積極的に行いました。

2021年に創刊したデジタルコミック誌「PRIMOプリモ」「COMICヤミツキ」や、2020年に創刊したBLレーベル「&Emo.」のコミックスが堅調に推移し、売上の増加に寄与いたしました。2023年4月にはデジタルコミック誌「comic Killa」を新たに創刊する等、読者の嗜好性に合わせたコンテンツの創出とジャンルの拡大を推進いたしました。また、BLコミック誌「GUSH」が20周年を迎えたことを期に、コラボカフェの開催といった様々な施策を実行いたしました。

さらに、異世界&令嬢作品に特化した、女性向けライトノベルのコミカライズレーベル「BKコミックスf」では「ノベルバ」と共同で「第2回BKコミックスf令嬢小説コンテスト」を開催する等、セグメント間の連携を強化するとともに、レーベルの特徴を活かした作品の創出に注力いたしました。

このほか、ぶんか社の人気グルメ漫画「半熟ファミリア 腹ペコ兄妹の熟成レシピ」が日本テレビホールディングス株式会社の子会社である株式会社日テレ アックスオン制作にてテレビドラマ化したしました。また、2023年6月には、ぶんか社刊の「お姫様クラブ」がフジテレビ系の番組内にて映像化されました。

これらの結果、当セグメントの売上高は3,292,031千円（前年同期比1.3%減）、営業利益は491,482千円（前年同期比21.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は17,966,287千円となり、前連結会計年度末に比べ1,073,644千円減少しました。

流動資産は8,158,918千円となり、前連結会計年度末に比べ648,838千円減少しました。これは主に、現金及び預金が170,818千円、売掛金が358,609千円、未収還付法人税等が105,588千円減少したことによるものです。

固定資産は9,807,368千円となり、前連結会計年度末に比べ424,806千円減少しました。これは主に、無形固定資産が426,310千円減少したことによるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は11,371,505千円となり、前連結会計年度末に比べ1,353,734千円減少しました。

流動負債は7,860,088千円となり、前連結会計年度末に比べ816,516千円減少しました。これは主に、支払手形及び買掛金が351,418千円、未払金が50,889千円、未払法人税等が82,519千円、未払消費税等が121,508千円、契約負債が54,074千円、返金負債が164,829千円減少したことによるものです。

固定負債は3,511,417千円となり、前連結会計年度末に比べ537,218千円減少しました。これは主に、長期借入金金が510,000千円減少したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は6,594,781千円となり、前連結会計年度末に比べ280,089千円増加しました。これは主に、利益剰余金が267,613千円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は、36.7%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の残高は4,047,162千円となり、前連結会計年度末に比べ170,818千円減少しました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動においては、税金等調整前四半期純利益705,444千円から、主な加算項目として、減価償却費213,238千円、のれん償却額295,324千円、売上債権の減少額361,743千円等がありました。これに対して主な減算項目として、仕入債務の減少額351,418千円、未払金の減少額49,781千円、契約負債の減少額54,074千円、返金負債の減少額164,829千円、未払又は未収消費税等の増減額121,508千円、法人税等の支払額329,325千円等がありました。

この結果、獲得した資金は490,279千円(前年同期は1,191,088千円の獲得)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動においては、主な資金減少要因として、無形固定資産の取得による支出74,661千円等がありました。

この結果、使用した資金は83,016千円(前年同期は116,608千円の使用)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動においては、主な資金減少要因として、長期借入金の返済による支出510,000千円、配当金の支払額71,584千円等がありました。

この結果、使用した資金は578,080千円(前年同期は1,017,978千円の使用)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年2月14日の「2022年12月期決算短信」で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,217,980	4,047,162
受取手形	36,910	33,776
売掛金	4,341,938	3,983,329
商品及び製品	57,759	59,037
貯蔵品	793	672
前渡金	2,589	7,287
前払費用	48,218	35,838
未収入金	7,313	1,602
未収還付法人税等	105,588	0
その他	480	1,026
貸倒引当金	△11,817	△10,814
流動資産合計	8,807,757	8,158,918
固定資産		
有形固定資産		
建物	14,662	14,662
建物附属設備	70,634	70,634
工具、器具及び備品	149,020	157,434
減価償却累計額	△165,549	△174,249
減損損失累計額	△1,602	△1,602
有形固定資産合計	67,164	66,879
無形固定資産		
のれん	8,919,020	8,623,695
ソフトウェア	191,638	155,044
コンテンツ資産	273,834	260,949
ソフトウェア仮勘定	2,298	454
コンテンツ資産仮勘定	4,319	3,348
著作権	590,000	511,333
その他	1,282	1,257
無形固定資産合計	9,982,395	9,556,084
投資その他の資産		
敷金及び保証金	108,492	108,492
繰延税金資産	54,292	54,292
その他	19,830	21,618
投資その他の資産合計	182,615	184,403
固定資産合計	10,232,175	9,807,368
資産合計	19,039,932	17,966,287

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,310,535	2,959,117
短期借入金	2,000,000	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	1,020,000	1,020,000
未払金	463,785	412,896
未払費用	34,785	21,444
未払法人税等	496,755	414,236
未払消費税等	166,692	45,184
契約負債	665,215	611,140
返金負債	417,866	253,037
預り金	35,520	77,135
その他	65,447	45,895
流動負債合計	8,676,604	7,860,088
固定負債		
長期借入金	3,825,000	3,315,000
繰延税金負債	223,636	196,417
固定負債合計	4,048,636	3,511,417
負債合計	12,725,240	11,371,505
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,893,301	1,896,359
資本剰余金	1,892,826	1,895,859
利益剰余金	2,885,192	3,152,806
自己株式	△356,628	△350,242
株主資本合計	6,314,691	6,594,781
純資産合計	6,314,691	6,594,781
負債純資産合計	19,039,932	17,966,287

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年6月30日)
売上高	9,310,679	9,427,984
売上原価	5,980,717	6,132,776
売上総利益	3,329,962	3,295,208
販売費及び一般管理費	2,304,668	2,561,978
営業利益	1,025,293	733,230
営業外収益		
受取利息	12	11
受取配当金	87	107
受取返戻金	1,408	1,452
助成金収入	454	—
その他	661	311
営業外収益合計	2,624	1,882
営業外費用		
支払利息	63,327	26,662
融資手数料	3,699	2,611
その他	495	393
営業外費用合計	67,522	29,667
経常利益	960,395	705,444
特別損失		
減損損失	115,236	—
損害賠償金	900	—
特別損失合計	116,136	—
税金等調整前四半期純利益	844,259	705,444
法人税、住民税及び事業税	424,033	364,700
法人税等合計	424,033	364,700
四半期純利益	420,225	340,744
親会社株主に帰属する四半期純利益	420,225	340,744

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	420,225	340,744
四半期包括利益	420,225	340,744
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	420,225	340,744

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	844,259	705,444
減価償却費	250,086	213,238
減損損失	115,236	—
のれん償却額	310,798	295,324
支払利息	63,327	26,662
融資手数料	3,699	2,611
売上債権の増減額 (△は増加)	272,853	361,743
立替金の増減額 (△は増加)	△52,529	△19
仕入債務の増減額 (△は減少)	△173,528	△351,418
未払金の増減額 (△は減少)	33,524	△49,781
未払費用の増減額 (△は減少)	△166,690	△15,035
契約負債の増減額 (△は減少)	△51,466	△54,074
返金負債の増減額 (△は減少)	△65,320	△164,829
未払又は未収消費税等の増減額	116,793	△121,508
その他	74,275	△2,059
小計	1,575,319	846,300
利息及び配当金の受取額	99	119
利息の支払額	△63,650	△26,815
法人税等の支払額	△320,680	△329,325
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,191,088	490,279
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△11,986	△8,414
無形固定資産の取得による支出	△104,702	△74,661
その他	80	59
投資活動によるキャッシュ・フロー	△116,608	△83,016
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△970,000	△510,000
融資手数料の支払による支出	△3,699	△2,611
株式の発行による収入	3,216	6,115
自己株式の取得による支出	△47	—
配当金の支払額	△47,447	△71,584
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,017,978	△578,080
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	56,501	△170,818
現金及び現金同等物の期首残高	3,545,290	4,217,980
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,601,792	4,047,162

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年3月29日 定時株主総会	普通株式	71,968	12.00	2022年12月31日	2023年3月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2023年3月29日開催の取締役会決議に基づき、2023年4月28日付で、当社の取締役に対する譲渡制限付株式報酬として自己株式4,279株の処分を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において利益剰余金が1,161千円、自己株式が6,385千円減少し、当第2四半期連結会計期間末において利益剰余金が3,152,806千円、自己株式が350,242千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴う会計上の見積り

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
自社配信	5,596,616	—	5,596,616	—	5,596,616
他社配信	215,326	2,087,489	2,302,815	—	2,302,815
紙出版	—	944,347	944,347	—	944,347
その他	243,151	223,748	466,899	—	466,899
顧客との契約から生じる収益	6,055,094	3,255,585	9,310,679	—	9,310,679
外部顧客への売上高	6,055,094	3,255,585	9,310,679	—	9,310,679
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	79,683	79,683	△79,683	—
計	6,055,094	3,335,268	9,390,362	△79,683	9,310,679
セグメント利益	396,422	629,078	1,025,501	△207	1,025,293

(注) 1. セグメント利益の調整額△207千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「プラットフォーム」セグメントにおいて、一部のゲームに関するサービスに係る無形固定資産について減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において115,236千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自2023年1月1日至2023年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
自社配信	5,828,576	—	5,828,576	—	5,828,576
他社配信	200,956	2,102,796	2,303,753	—	2,303,753
紙出版	—	896,970	896,970	—	896,970
その他	178,229	220,455	398,684	—	398,684
顧客との契約から生じる収益	6,207,762	3,220,222	9,427,984	—	9,427,984
外部顧客への売上高	6,207,762	3,220,222	9,427,984	—	9,427,984
セグメント間の内部売上高 又は振替高	545	71,809	72,355	△72,355	—
計	6,208,308	3,292,031	9,500,339	△72,355	9,427,984
セグメント利益	241,477	491,482	732,960	269	733,230

(注) 1. セグメント利益の調整額269千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。